

『わたしがすること』(ローマ人への手紙 12章 17-21節) 2022.7.10.

<はじめに> またしても悲しい事件が起こり、私たちは衝撃を受けています。人の心のうちの闇があふれ出たのでしょうか。私たちが生きている世界の現実を前にして、聖書が示す生き方に改めて目を向けています。

I この世の現実

①多様な世界の中で

私たちが生活する世界には、多種多様な人と考えが交錯しています。そのすべてを理解し、同意できるわけではありません。善悪の判断さえも揺れ動いている中ですが、現に悪があり、それが私たちを脅かしています。

②悪に悪を返す(17)

悪に出くわすと、似たような悪で対抗する傾向が私たちにあります。それは増幅しがちで、泥沼化して悲惨な状況に至るまで続きます。無駄で無益なことだと分かっているながらも、それを繰り返しているのが私たち人間の現実です。

③平和を保つ(18)

平和を願わない人はいないでしょう。なのに、平和が実現するのは至難です。聖書は、「自分に関することについては、できる限り、すべての人と平和を保ちなさい」と命じます。理想を語っているのでしょうか。いや、現実的な道を聖書は示しています。

II 神の領域

①復讐はわたしのもの(19)

邪悪に接すると、心が乱されます。正義心から立ち上がり、対抗報復しようとしみます。しかし、神は「復讐はわたしのもの。わたしが報復する」と言われます。すべてを公正公平に見られる方のみが、物事の善悪をさばき、それに報いることができるからです。

②わたしが心配する(I ペテロ 5:7)

自分で報復しないなら、この窮地はどうなるのか、と心配になります。「神はあなたがたのことを心配してくださる」方です。全知全能の神が私の一切を丸抱えしてくださると約束されています。ですから、この神と私との間に平和と信頼があるかどうか重要です。

III 私の領分

①ゆだねなさい(19)

神の領域を侵犯してはなりません。神を疑ってはなりません。神より自分の方が賢く、信頼できるでしょうか。神を信じるとは、神に自分の大切なものを任せることです。それは、観念的ではなく、生活の具体的なことを通して表されます。

②悪に打ち勝ちなさい(20-21)

邪悪の土俵において対抗するのではなく、神にふさわしい善の領域で対抗するのです。そうすることで、やがて相手も邪悪の空しさに気付くこともあるでしょう。こうして、すべての人と平和を築くことへと前進するのです。

<おわりに> 聖書が示す善をもって悪に打ち勝つ道を、イエス・キリストはその生涯を通して表してくださいました。それは一見至難で現実離れているように見えるかもしれませんが、イエスの足跡はそれが確かであることを示しています。(H.M.)